

令和6年4月15日発行

- 第27号 -

# とも たの 偕に楽しむ

今年も楽しかったです。～2023年 秋の紅葉狩りウォーキングと偕に楽しむ集い



今年も楽しめました。紅葉狩りウォーキング

11月23日(木)集合当初は雨模様でしたが、次第に天気が回復する中で、恒例の「秋の紅葉狩りウォーキングと偕に楽しむ集い」が開催されました。参加者は三つの班に分かれ、それぞれ歴史アドバイザー水戸の皆さんの解説を聞きながら、偕楽園内外の見応えのある紅葉を楽しみました。コース散策を楽しんだあとは窈窕広場でお昼をいただき、その後、ヨガなどでリラックス。まさに偕(とも)に楽しむ時間が過ごせました。

楽しく、学べる行事をたくさん用意して皆様をお待ちしております。  
会長 三ッ石 敏

令和6年は元日の能登半島地震、翌日の航空機事故と大変な始まりとなりました。犠牲となられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、令和5年度後半は、11月には4年ぶりに開催された大名庭園サミット高松大会に当会から4名が参加しました。また、「紅葉狩りウォーキング&偕に楽しむ集い」には多くの方が参加され、季節を感じながら紅葉狩りと芝生でのヨガを楽しみました。

令和6年度は、昨年好評だったバス旅行の第二段として5月に会津への旅行を計画しています。また、大名庭園サミット彦根大会への参加に向けて準備していきます。本年度も春秋のウォーキング、弘道館での論語塾、花パートナー活動と精力的に活動を継続していきますので、ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。



# 大名庭園サミット高松大会2023に参加しました。

## 第14回大名庭園サミット高松大会



水戸からの参加者 幡谷・岡野・三ツ石・鈴木

御門(三の丸入口の櫓門)及び内部を見学しました。その後、月見櫓や藩主が参勤交代時に舟で出発する水手御門を見学後、城の内堀を巡る和船に乗船し、天守の石垣(算木積み)や鞘橋、野面積みの石垣等を巡りました。

午後1時から商工奨励館に於いて、第14回大名庭園サミット高松大会が開会し、来賓の香川県知事池田豊人氏、高松市長大西秀人氏、高松松平家第14代当主松平頼武氏よりご挨拶をいただきました。続いて、香川大学特任教授の長谷川修一先生による「大地の成り立ちから見た高松城下と栗林公園のデザイン」というテーマでの基調講演は、水戸の城下の成り立ちと通じるところもあり、たいへん興味深い内容でした。

その後、各出席者からそれぞれの庭園の紹介と、現状についての以下のとおり報告がありました。

- 1 栗林公園 紫雲山を背景に、平庭の部分だけでも16.2haの広さがあり、高松駅から10分という街中にありながら、園内に一步踏み入ると人里離れた自然の中にあるような気分が味わえる庭園。特別名勝指定70年の記念すべき年。クラブの会員数が120名。
- 2 兼六園 加賀藩の平和と繁栄の願いのこもった回遊式庭園(11.4ha)四季の移ろいの魅力、金沢城二の丸御殿の復元整備、コロナ禍で落ち込んだ入園数の回復及び増加傾向に。
- 3 後楽園 明るく広々とした庭園、藩主の居間延養亭の前面に広がる芝生、大きな池、借景となる園外の山々。マスクなしの今、ゆったりと息を吸いながら気晴らしを。
- 4 偕楽園 広さと高低差のある庭園。文武を鍛える場としての「弘道館」と一对の施設。梅が魅力であるが、梅の時期以外の集客に課題あり。行政と市民が一体となって年間を通した魅力づくりと世界に向けた魅力の発信をめざしている。
- 5 小石川後楽園 江戸初期に作られた回遊式泉水築山庭園。初代水戸藩主頼房公が作り、二代藩主光圀公によって手が加えられた庭園。失われた施設の復元に努める。
- 6 玄宮楽々園 内堀とかつて存在していた琵琶湖の内湖との間にあり、ビル等の建物の風景がない国宝彦根城天守からの借景。4つの島と9つの橋を配した池泉回遊式庭園。
- 7 広島縮景園 城から離れた場所に造営された大名庭園の先駆けといわれる。外人観光客がコロナ前の水準に、日本人観光客も8割程度まで回復。
- 8 福井養浩館庭園 「お泉水屋敷」と称された福井藩松平家の別邸庭園。海外から高い評価を得ている。北陸新幹線が来年3月に延伸。
- 9 熊本水前寺成趣園 水前寺成趣園の湧水と同様の美味しい水を生活用水として使用している。庭園の所有者が細川家を祭る出水神社であるため、行政との連携がうまくとれていない。

以上、水戸から会場までの距離が遠く、移動時間もかかりましたが、実り多い研修になりました。

交流委員長 岡野一紀

令和5年11月9日(木)から10日(金)にかけて開催された大名庭園サミット高松大会2023(香川県高松市)に、偕楽園公園を愛する市民の会からは、三ツ石敏会長、鈴木重文氏、幡谷公朗氏、岡野一紀が参加しました。大会のテーマは「今こそ発信!! 大名庭園の魅力」です。

11月9日の午前中は、三大水城と呼称される高松城をボランティアガイドの案内で、藩主が生活した場所「披雲閣」と称する御

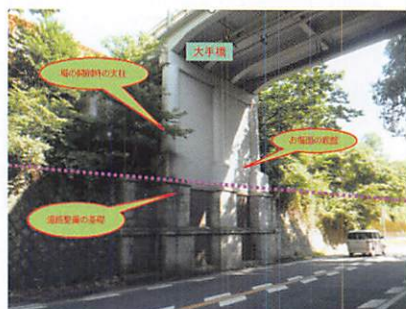
殿、2022年6月に完成の桜



高松城跡桜御門にて

## 偕楽園の魅力を地形から見つめる—その5

西原 昇治



三の丸と二の丸を繋ぐ大手橋  
空堀は現在の県道

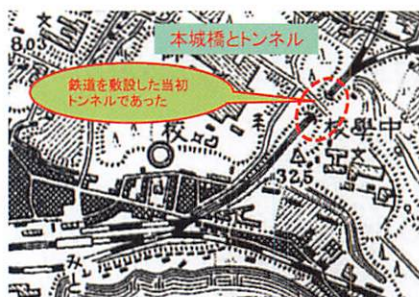
### 水戸の城郭跡を地形から推理する

「徳川御三家水戸藩の本拠地にお城がない」と聞く。城がなければ歴史を案内できない、そんなことはありません。水戸城の城郭はどのように築かれたか、私なりに掘り下げてみました。水戸城は惣構えと言われる、まち全体が城郭としてつくられています。お堀は東西に5本築かれています。当時の面影は、三の丸西側の空堀です。お堀の跡は元々自然地形ですので、今もはっきりと観察できます。

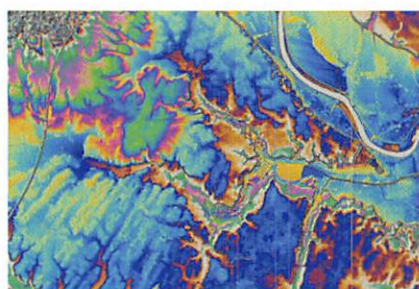
お堀はどのようにして築かれたか検証してみます。上市の台地は、東西に延びる舌状台地です。地盤面の形状は、北から南に僅かに低くなります。西の方角、大工町から泉町周辺は、大工町交差点で低く、泉町に向かい高くなり、南町三丁目で再び低くなります。その先は緩やかに傾斜して、銀杏坂に代表される坂から扇状にゆるい傾斜が広がりを見せます。では上市の馬の背地形はどのようにして出来たのか見てみます。

上市台地の谷から坂を登ると、先に筋状の窪地が伸びています。それを追跡すると、平らな面にたどり着きます。この緩やかな地形は、雨水の流れでけずられた跡です。この道筋を利用して堀をつくりました。お堀の役割は人の往来を遮断することですが、雨水が留まらない排水機能も有していました。

上市台地の表層5m程は関東ローム層と言われる赤土で、堀を築くのにそれほどの労力は要しませんでした。堀の深さはそれぞれ異なりますが、三の丸西側の現存する堀が最も深いと想定します。水郡線、国道旧6号線沿いの堀は、後に開削したのではと考えます。大手橋の基礎の部分は、円形の部分までが堀、基礎の部分は地中で有ったと思われます。水郡線は当初、水戸駅から那珂川右岸をフラットにするため開削しました。当初堀に架かる本城橋の橋脚の下層はトンネルでした。堀は赤土を掘り、下層の砂れき層には手を付けず、地下水の流れ出しを防いだと思われます。



本丸の入り口に繋がる本城橋  
(現在は下に水郡線の線路)の地形図



地形解析図。等高線毎に色分けしました。地形の段差がわかります。水の流れは線状に伸びる方角に規則性が認められ、関東造盆地運動と連動しています。

水戸城のお堀の方向が地質構造に関わっている壮大なお話しをします。南北の傾斜、幾本もの窪地、那珂川、千波湖の地形等は、関東平野の形成過程によってつくられました。300万年前から始まったフィリピン海プレートの運動により、関東造盆地運動が活発となりなりました。その動きにより関東平野周辺は北西にリニヤメントという直線的な地質構造が出来たのです。その線状に利根川、那珂川などが流れをつくり、また、直行するように流れが出来たのです。別図、地形解析図を眺めてみて下さい、自然は素直です。これら線状は海水面が低くなった離水によって出来た流れの跡です。

# 楽習会が開催されました。講師:木村久美子さん

## 「観光案内所から見えてくる水戸の観光のありかた」

会員の知見を深め、活動がより活性することを目的として、会員を講師にお願いして令和6年1月15日(月)に楽習会を開きました。今回の楽習会では、茨城の玄関である水戸駅観光案内所において県内外からの旅行客、一般市民を対象に案内業務に携わる木村久美子さんを講師に、お客様に対する対応について、また、水戸の魅力を日頃からどのように伝えているかをお話していただきました。お話を通して、水戸を訪れる県内外の方々にとどのように接すべきか、学ぶところが多々ありました。以下は案内業務の様子について木村さんご自身に改めてまとめていただきました。お忙しい中ご執筆ありがとうございました。



楽習会で話をする木村さん

- ①よく訪ねられる質問について、またその時の対応準備について
  - ・ 偕楽園、弘道館へのアクセス→観光案内のパンフレット、バスの時刻表を準備
  - ・ イベント情報の問い合わせ→収集しているが、わからない事はその都度確認して案内
  - ・ 駅近の温泉、銭湯などの入浴施設→銭湯はないが、至近の日帰り入浴施設を紹介
  - ・ 水戸ならではの食事処、駅弁はどこで、おすすめのお土産は、→パンフレット等で案内
  - ・ ホテル等の宿泊施設→パンフレット等で案内
  - ・ トイレの場所→何カ所かあるのでお客様の状況に合わせて案内
- ②外国人(インバウンド)のお客様からの質問と希望について
  - ・ 偕楽園等の観光地(含む水戸以外)へのアクセス→バス乗り場、料金、英語の手書きの案内を用意(袋田の滝、龍神峡、ひたち海浜公園、大洗、笠間、牛久大仏などへ水戸からのアクセス方法の質問が多い。最近では酒蔵見物も)
  - ・ 街の中に英語表示の看板が少ない。安い宿に泊まりたい。(B&Bなど)
- ③水戸にあったら良いと思う施設
  - ・ 旅館(駅近くはビジネスホテルが多いので) ・ 水戸駅荷物預かり所 ・ 水戸駅近くの日帰り温泉
- ④お客様に対応する時に心がけていること
  - ・ 笑顔でのお声かけ ・ 正しい情報を伝える。
- ⑤偕楽園公園を愛する市民の会員が学ぶべきこと(偕楽園や水戸の魅力向上を目指すために)
  - ・ 偕楽園記、弘道館記、種梅記を読む。偕楽園なんでも百科の活用
  - ・ 七面焼、水戸黒、農人形、梅染、吉原殿中、紫錦梅、水戸藩ラーメンの作り方など

最後に

常日頃からおもてなしの心を持ってお客様に接しております。「ありがとう」のお言葉をいただくのを励みに、茨城・水戸の魅力を丁寧にお伝えしていきたいと思っております。

### シリーズ「偕楽園の梅を知る(5)」(最終回)

回答は根本実継さん(元偕楽園公園課樹木管理支援員)

**質問** 徳川斉昭公が記した種梅記の前段には、水戸は梅が少ないということを述べています。もともと水戸は梅を育てるには適している土地なのでしょうか。

**回答** 年間最低気温の平均値から植物の植栽可能地域を示す「クライメートゾーン※注」によると、ウメ樹は5a(-28.9~-26.1℃)から10a(1.1~1.7℃)で、北海道南部から沖縄県那覇市くらいまでが植栽可能です。水戸市は8b(-9.4~-6.7℃)、梅の生産日本一の和歌山県は8a(-12.2~19.4)から10aです。栽培可能地と果実収穫適地は別です。日本で最も生産量の多い梅の品種「白加賀」の茨城県平年の開花は3月中旬が最盛期です。ウメの花は厳寒期に開花し、耐寒性は高いですが、膨らみ始めた蕾の耐寒性はそう高くはありません。寒の戻り、花に積もる雪など、春先の天候不順により、ウメに寒害が出る年もあります。また、ニホンミツバチやアブ類等の訪花昆虫が減少し、受粉条件がよくない年もあります。茨城県のウメの果実栽培にとっては、不安定な条件が多くあり、必ずしもウメ栽培の適地とはいえません。一方、和歌山県のウメの産地は、山地の陽だまりで暖かく、開花が早く寒さにあうこともなく受粉条件も良いのです。群馬県、福島県のウメの産地は、寒いので春が遅く、ウメ、モモ、サクラの花が一斉に咲き、寒害に遭うことが少なく受粉条件も良いのです。

注(寒さを地域別に分け、植物ごとにどの地域まで冬越しが可能かなどを示す指標)参考「樹木アートブック 小形研三総監修 1990年 アポック社」

# 委員会だより

## 秋の紅葉狩りウォーキング 偕に楽しむ集いの報告 交流委員会

### 第1部 紅葉狩りウォーキング

今年も楽しく、偕楽園で学び、もみじ谷で紅葉を楽しみ、広場でリラックスしました。今回は、三班に分かれてのウォーキングです。一班は岡野が先導、二班は歴史アドバイザー水戸の菊池みどりさん、三班が同じくアドバイザーの平塚勝男さんが案内をしました。

水戸市民でさえあまり知られていない「大日本史完成の地碑」、光圀公が笠原水道に使用した神崎岩を掘った「南崖の洞窟」、斉昭公が水戸藩領内にある八つの景勝地を選んだその一つ「仙湖の暮雪」を巡り、正岡子規の句碑、偕楽園記碑を見学。杉林を抜け七曲りを降り、永坂周先生が梅の季節に偕楽園を訪れ詠んだ漢詩の碑を見ながら吐玉泉へ至りました。梅桜橋を渡って玉龍泉に。日本最古の噴水と言われており、池の水面から約1メートルほどの高さで水が細く噴出していました。



もみじ谷は今年も綺麗でした。

いよいよもみじ谷へ。暑い時期が長く続いたため、もみじの葉が例年よりも縮んでしまいましたが、紅葉はやはり美しかったです。けが人もなく無事に広場まで戻れました。お弁当をいただきながら「偕楽園を愛する市民の会」の活動状況、花パートナー・論語塾・朝活・偕楽園の梅の木を使っての梅染めなどそれぞれの担当者より説明をさせていただきました。

### 第二部 交流会「偕に遊ぶ」

はじめに菊田利秀委員よりノルディックウォーキングのデモンストレーションをしていただきました。元々はスキーマの選手が体力維持のため夏にトレーニングとして行っていたそうで、通常のウォーキングに比べると上半身の筋肉も使う全身運動だそうです。



ヨガでさらにリラックスしました。

続いて、鯉沼千加子委員より、ダイエットや健康法セルフマネジメントとしても効果のある、楽しいヨガを経験させていただきました。ヨガは通常マットの上に寝転んでするものと思っておりましたが、立ってでもできるヨガもあることを教えていただきました。戦士のポーズI・II・IIIや木のポーズ、しかばねのポーズ等々。つま先までグーンと伸び、また心が軽くなったようでした。(K.O)

## 花パート活動～酷暑に耐えて秋の花々が楽しめました。 魅力向上委員会

酷暑を耐え秋には秋の花々が咲き揃いましたが、害虫の増殖による被害は避けられず、期待した皇帝ダリアの大輪を見ることが出来なかったことが悔やまれます。誰に言われるともなく、近くを通った時や散歩がてらに立ち寄って花畑の状況をラインで知らせ合い、心を通い合わせたメンバーの方々ありがとう！来年度も花たちと一緒に喜びと苦勞を分かち合いましょう。

新しい仲間を作って偕(とも)に楽しい活動を続けて行きたいと思えます。笑顔の花を咲かせましょう!(R.K)



汗をかくものの楽しい時間です。

# 委員会だより

## 偕楽園公園での月イチ朝活

毎月第3土曜日朝6時半から偕楽園公園窈窕広場にてポスチャーフォーキングを鈴木律子が指導し、その後、鯉沼千加子がヨガレッスンを開催しています。

「朝日を浴びながら偕楽園の心地よい環境の中で身体を動かすと、身体だけでなく心も目覚め、1日をポジティブに過ごすことができる」と参加者からの声。

この朝活は6年目になりました。今後もこの活動を通じて、地域住民の皆様の健康と幸福感の向上のお役に立てれば嬉しい限りです。(C.K)

## 魅力向上委員会



朝日を浴びながら  
偕楽園窈窕広場でヨガ

## 論語塾～日本遺産で論語を学ぶ

論語塾は令和6年4月から16期目がスタートします。今年度も日本遺産である弘道館で受講生の皆様に学んでいただける機会を有り難く思います。

さて今回は『論語』の章句の一つをご紹介します。「学びて時に之を習う、またよろこばしからずや。朋遠方より来たる有り、また楽しからずや。人知らずしてうらみず、また君子ならずや」これは学びを深めていく喜びや、良き友人を持ち、理想の人物を目指すことの大切さを言っています。

論語はどんな年代の方にも勇気をくれたり新しい気づきを得られたりと、人生が豊かになる言葉にたくさん出会えます。講師の小堀優先生、小坏的り子先生、そして特別講師の安岡定子先生にご指導いただきながら論語に親しんでいただきたいと思います。(R.S)

## 論語委員会



弘道館至善堂で小坏的先生の  
講義を受ける参加者

## 今後の行事案内

### 春のウォーキングのご案内

日時：令和6年5月18日(土)

集合場所：四季の原 好文橋下付近

コース：桜川緑地を歩く

募集人数：30名 参加費：600円(お弁当と保険を含む) 申し込み：5月13日(月)迄

申し込み・お問い合わせ

三ッ石 まで(TEL:090-8563-5181、E-mail:mitsusat@ybb.ne.jp)

お名前、ご住所、連絡先、年齢をご連絡ください。

## 編集後記

梅まつりの最終日(3月17日)に偕楽園を訪ねました。時期が時期だけに観梅は期待しておりませんでした。あに図らんや、園内のあちこちにまだ梅の花がつつましく咲いており、ちょっと得をした気分になりました。斉昭公の時代から多種の梅を植える伝統が今なお残っているお蔭でしょうか。(K)

偕楽園公園を愛する市民の会 事務局

住所：〒312-0041 ひたちなか市西大島3-14-9 TEL：090-8563-5181/FAX：029-272-8303

発行：偕楽園公園を愛する市民の会

協力：(株)ロシナンテ ※当会へのお問い合わせは事務局まで